

栃木県さくら市方言



栃木県方言区画図

【栃木県の方言区画】 栃木県方言は、東京方言を含む関東方言に位置する。その下位区画では、茨城県と共に北関東方言に位置づけられている。また、東北方言と共通する特徴が認められることから、南奥羽方言に区画されることもある。県内は、栃木県方言区画図に示したように、足利方言、西部方言、中部方言、東部方言に区画される(大橋 1992、平山 1992、森下編 2004)。足利方言は、アクセントにおいて県内の他地域と大きく異なる。栃木県はほぼ全域で無型アクセントだが、足利方言は隣接する群馬県方言と同じく東京式アクセントである。

【さくら市方言について】 本稿で取り上げるさくら市方言は、旧塩谷郡氏家町で話されている方言である。さくら市は、旧塩谷郡氏家町、旧塩谷郡喜連川町が合併(2005年3月)してなった地域である。

さくら市方言は、栃木県方言区画図に示したように、県内区画では東部方言に位置づけられる。東部方言は福島県方言に接し、南奥羽方言と似ている事象が見られる。例えば、方向や場所を表示する共通語の助詞「へ」「に」には「サ」が対応し、「東京サ行く」「東京サ着く」のように表現される。

母音の音声では、イとエが極めて近い発音になる。イは共通語よりも口の開きが広く、エは同じく口の開きがやや狭い。その影響を受け、「い」と「え」が混同し、特に「い」がエに発音される語が多く観察される。例えば、「胃」「息」「イギリス」「間」「鶯」は、「エ」「エキ」「エギリス」「アエダ」「ウグエス」と発音されることがある。

「来る」「する」の上一段化した形は、共通語形と併用されている部分がある。「来る」は、使役では「キラセル」「コラセル」「クラセル」がある。同じく、受身・可能では「キラレル」「コラレル」「クラレル」、意志・推量では「キヨー」「コヨー」となる。なお、篠木(1989)は、可能の打消表現における使い分けを指摘している。「キランネ」は「目上」に対して、「コランネ」は「同等及び目下」に対して、「クランネ」は「まったく気を使わなくてもいい人」に対して使用されるといい、「来られる」に丁寧の助動詞「ます」が接続可能なのは、キラレマス、コラレマスであり、クラレマスとは言いにくい。」としている。一方、「する」は、断定非過去に「シル」と「スル」の形がある。篠木(1989)では、老年層の話者から「シル」の方が新しい形であるという内省が聞かれたという。一段化が進むとも考えられるが、実際には学校教育の影響を反映してか、青年層においてはサ行変格活用の方向に進んでいるとしている。

【表記について】 文献から引用した用例は、原典の表記にしたがう。調査で得た用例は、カタカナ表記をする。長音は「ー」によって記す。非語頭のカ行音、タ行音は濁音化するため、実際の発音に基づき濁点を付す。非語頭のガ行音は鼻音となるが、カタカナ表記では破裂音と区別せずに表記する。

【調査概要】 本稿の記述は、さくら市(旧塩谷郡氏家町)で生育した女性(1969年生)への聞き取り調査と、『氏家町史 民俗編』(1989)所収の「第5章くらしと言語 第3節方言」(担当:篠木れい子)の記述に基づいている。なお、例文を篠木(1989)から引用するに当たり、共通語訳が必要な部分には(訳:○○)と記して説明を補った。

栃木県さくら市方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終止類	断定非過去	カグ	ミル	クル	スル シル
	断定過去	カイダ	ミダ	キダ	シダ
	命令	カゲ カギナ	ミロ ミレ ミナ	コイ コー キナ	シロ シナ
	禁止	カグナ カグンジャネ (一) カギナサンナ	ミルナ ミンナ ミンジャネ (一) ミ ナサンナ	クンナ クンジャネ (一) キナサンナ	スンナ シンナ スンジャネ (一) シンジャネ (一) シナサンナ
	意志	カゴー カグベ	ミヨー ミルベ ミッペ ミンベ	キヨー コヨー クルベ クッペ クンベ	シヨー スルベ スッペ スンペ シベ (一) シッペ (一) シンベ
	推量	カグダロー カグダンベ (一) カグندانベ (一) カグンジャネーゲ	ミンダロー ミンダンベ (一) ミンジャネーゲ	クルダロー クンダロ (一) クルダンベ (一) クندانベ (一) クンジャネーゲ	スنداロー スندانベ (一) スンジャネーゲ
接続類	連体非過去	カグ	ミル	クル	スル シル
	連体過去	カイダ	ミダ	キダ	シダ
	中止	カイデ	ミデ	キデ	シデ
	仮定	カゲバ カイダラ	ミレバ ミダラ	クレバ キダラ	スレバ シレバ シダラ
派生類	否定	カガネー	ミネー	コネー キネー	シネー
	丁寧	カギマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カガセル カガス	ミサセル ミサス	コサセル キサセル キサス キラセル クラセル コラセル	サセル サス シラセル
	受身	カガレル	ミラレル	コラレル キラレル クラレル	サレル
	可能	カゲル カガサル	ミレル ミラサル	コラレル キラレル クラレル コラサル キラサル クラサル	シラサル 《デキル》

尊敬	カガレル	ミラレル	コラレル	サレル
継続	カイデル	ミデル	キデル	シデル
希望	カギデー カギダイ	ミデー ミダイ	キデー キダイ	シデー シダイ
のだ	カグンダ	ミンダ ミルンダ	クンダ クルンダ	スンダ シンダ スルンダ シルンダ

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kag·u	カイ-タ	g を i にする。-タは有声化して発音されることが多い。「行く」ik·u、「歩く」aruk·u は k を Q (促音) にし、それぞれ「イツ-タ」「アルツ-タ」。
g	嗅ぐ kaŋ·u	カイ-ダ	ŋ を i にする。-タが-ダになる。
s	出す das·u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	立つ tac·u	タツ-タ	t/c を Q (促音) にする。
n	死ぬ sin·u	シン-ダ	n を N (撥音) にする。-タが-ダになる。語幹末子音は ŋ となることが多いが、音便形の作り方は同じである。
b	飛ぶ tob·u	トン-ダ	b を N (撥音) にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom·u	ノン-ダ	m を N (撥音) にする。-タが-ダになる。
r	切る kir·u	キツ-タ	r を Q (促音) にする。
w/φ	買う ka(w)·u	カッ-タ	w を Q (促音) にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か (だ)	学生 [ガクセー] (だ)
終止類	断定非過去	アガイ	シズガダ	学生ダ
	断定過去	アガガッタ アガイガッタ	シズガダッタ	学生ダッタ
	推量	アガイダロ (ー) アガイダンベ (ー) アガガンベ (ー)	シズガダロ (ー) シズガダンベ (ー)	学生ダロ (ー) 学生ダンベ (ー)
接続類	連体非過去	アガイ	シズガナ △シズカデアル	学生ノ △学生デアル
	連体過去	アガカッタ アガイガッタ	シズガダッタ	学生ダッタ
	中止	アガグテ アガグッテ	シズガデ	学生デ
	仮定	アガグレバ アガイガッタラ	シズガダラ シズガナラ	学生ダラ 学生ナラ
派生類	否定	アガグナイ アガグネ (ー)	シズカデネ (ー) シズカジャネ (ー)	学生ジャネ (ー) 学生デネ (ー)
	なる	アガグナル アガイグナル	シズガンナル シズガニナル	学生ニナル 学生ンナル

	副詞	アガグ アガイグ	シズガニ	(該当形 欠)
	丁寧	アガイデス	シズカデス	学生デス
	のだ	アガイ ندا アゲ (ー) ンダ	シズガナンダ	学生ナンダ

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」)と基幹一段型(以下「一段型」)がある。およそ、多段型にはa類(「書く」・「居る」・「死ぬ」類)動詞、一段型にはb類(「見る」・「起きる」・「開ける」類)動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の5形、および、音便形がある。「カグ」(書く)の場合、カガ-ネー(kag·a-neR)、カギマス(kag·i=masu)、カグ(kag·u)、カゲ(kag·e)、カゴー(kag·o-R)、カイダ(kai-da)など。また、語幹末子音にはg(カ行)、ŋ(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、n(ナ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。

一段型には、見るミ-ル(mi-ru)、起きるオギル(ogi-ru)など基幹がイ段の動詞と、寝るネ-ル(ne-ru)、開けるアゲ-ル(age-ru)など基幹がエ段の動詞がある。一段型の動詞は、「ミル」を例にすると、断定非過去形ミ-ル(mi-ru)、仮定形ミ-レバ(mi-reba)、受身形・尊敬形ミ-ラレル(mi-rareru)、可能形ミ-レル(mi-reru)など、rで始まる接辞が付き、多段型のr語幹動詞に対応した形となる。命令ミ-ナ(mi-na)や、禁止ミ-ナサンナ(mi-nasaNna)は共通語にはない特徴的な形である。

不規則な活用をする動詞に「クル」(来る)と「スル」(為る)がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ-タ(k·i-ta)、ク-ル(k·u-ru)、コイ(k·o-i)などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段に、「スル」は、サ-レル(s·a-reru)、シ-タ(s·i-ta)、シ-ル(s·i-ru)、ス-ル(s·u-ru)などのように、基幹が「サ」「シ」「ス」の3段にわたる。「クル」は、否定形キ-ネー(k·i-neR)、使役形キ-サセル(k·i-saseru)、受身形・可能形キ-ラレル(k·i-rareru)となる。否定形コ-ネー、使役形コ-サセル、受身形・可能形コ-ラレルという共通語と同じ基幹「コ」の形のほかに、「キ」が用いられる。「スル」もまた、共通語

と同じ基幹「ス」の形のほかに、断定非過去形・連体非過去形シ-ル(s·i-ru)、仮定形シ-レバ(s·i-reba)、使役形シ-ラセル(s·i-raseru)という形、すなわち基幹イ段形が用いられる。上一段化の傾向と、ラ行五段化の傾向が確認される。

(2) 各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

多段型動詞は基幹ウ段形、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ル」が後接する形、「来る」は基幹ウ段形に「ル」が後接する形、「する」は基幹ウ段形またはイ段形に「ル」が後接する形となる。カグ(kag·u)、ミル(mi-ru)、クル(k·u-ru)、ス-ル(s·u-ru)・シ-ル(s·i-ru)など。

- ・ムスメニ テガミオ カグ。(娘に手紙を書く。)
- ・オツキサマオ ミル。(お月様を見る。)
- ・センセーガ クル。(先生が来る。)
- ・タウエオ {スル/シル}。(田植えをする。)

〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」は基幹イ段形に「タ」を後接する。このとき、「タ」は濁音化する。カイ-ダ(ka·i-ta)、ミ-ダ(mi-ta)、キ-ダ(k·i-ta)、シ-ダ(s·i-ta)となる。

また、語幹末子音がkである多段型動詞の中に、基幹音便形が促音になる語がある。例えば、アルツ-ダ(歩いた)(ar·u-Q-ta)など。

- ・センセーニ テガミサ カイダ。(先生に手紙を書いた。)
- ・キノーモ コノ ミジサ アルツダナー。(昨日もこの道を歩いたなあ。)
- ・キノー オツキサマオ ミダ。(昨日、お月様を見た。)
- ・センセーガ キダ。(先生が来た。)
- ・キノーワ タウエオ シダ。(昨日は田植えをした。)

〈命令形〉

多段型動詞ではカゲ (kag·e) など基幹エ段形の他に、基幹イ段形を用いたカギナ (kag·i-na) が現れる。一段型動詞では「基幹-ロ」のミ-ロ (mi-ro) の他に、「基幹-レ」のミレ (mi-re) やミ-ナ (mi-na) が現れる。「来る」ではコイ (k·o-i)、コ- (k·o-R) の他に、キ-ナ (k·i-na) が現れる。「する」ではシロ (s·i-ro) の他にシ-ナ (s·i-na) が現れる。

- ・ホラ ハヤグ カゲ。(ほら、早く書け。)
- ・ホラ ハヤグ カギナ。(ほら、早く書きなさい。)
- ・オツキサン デダガラ {ミロ/ミレ}。(お月様が出たから見ろ。)
- ・オツキサン デダガラ ミナ。(お月様が出たから見なさい。)
- ・ハヤグ {コイ/コ-}。(早く来い。)
- ・ハヤグ キナ。(早く来なさい。)
- ・ハヤグ シュクダイ シロ。(早く宿題をしろ。)
- ・ハヤグ シュクダイ シナ。(早く宿題をしなさい。)

〈禁止形〉

①「断定非過去形-ナ」、②「断定非過去形-ンジャーネー」のほか、③「尊敬の断定非過去形-ナ」に由来する形がある。

多段型動詞では、①カグ-ナ (kag·u-na)、②カグンジャーネー (kag·u-N-zja-neR) のほかに、③カギ-ナサンナ (kag·i-nasaN-na) など「イ段形-ナサンナ」の形で表現される。

一段型動詞では、①ミル-ナ (mi-ru-na)、ミン-ナ (miN-na)、②ミン-ジャーネー (mi-N-zja-neR) のほかに、③ミ-ナサンナ (mi-nasaN-na) など「基幹-ナサンナ」で表現される。

「来る」では、①クン-ナ (k·uN-na)、②クン-ジャーネー (k·uN-zjaneR)。③キ-ナサンナ (ki-nasaN-na)。

「する」では、①スン-ナ (s·uN-na)、シン-ナ (s·iN-na)、②スン-ジャーネー (s·uN-zja-neR)、シン-ジャーネー (s·iN-zja-neR)、③シ-ナサンナ (s·i-nasaN-na)。

- ・ソナ ドゴニ エナング カグナ。(そんな所に絵なんか描くな。)
- ・ソナ ドゴニ エナング カグンジャーネ。(そんな所に絵なん描くのではない。)

- ・ソナ ドゴニ エナング カギナサンナ。(そんな所に絵なん描きなさるな。)
- ・ソナニ ジッド {ミルナ/ミンナ}。(そんなにじっと見るな。)
- ・ソナニ ジッド ミンジャーネー。(そんなにじっと見るのではない。)
- ・ソナニ ジッド ミナサンナ。(そんなにじっと見なさるな。)
- ・ヤナダッダラ クンナ。(嫌なのだったら来るな。)
- ・ニドド クンジャーネー。(二度と来るのではない。)
- ・ヤナダッダラ キナサンナ。(嫌なのだったら来なさるな。)
- ・ソナ アブネーコト {スンナ/シンナ}。(そのような危ないことするな。)
- ・ソナ アブネーコト {スンジャーネー/シンジャーネー}。(そのような危ないことするのではない。)
- ・ソナ アブネーコト シナサンナ。(そのような危ないことしなさるな。)

〈意志形〉

多段型動詞ではカゴー (kak·oR) などオ段長音形の他に、カグ=ベ (kak·u=be) という、断定非過去形に「ベ」が後接する形がある。

一段型動詞では、ミ-ヨー (mi-joR) など「基幹-ヨー」の他、ミル=ベ (mi-ru=be)、ミツ=ベ (miQ=pe)、ミン=ベ (miN=be) のように、断定非過去形とその音便形に「ベ」または「ペ」が後接する形がある。

「来る」では、コ-ヨー (k·o-joR) という「オ段形-ヨー」の他に、キ-ヨー (k·i-joR) というイ段形に「ヨー」が後接する形がある。また、クツペ (k·u=pe) のように、断定非過去形「クル」の「ル」が促音化した形に「ペ」が後接する形がある。

「する」では、シ-ヨー (s·i-joR) という「イ段形-ヨー」の他に、シツ=ペ (ー) (s·i-Q=pe (R))、シ=ベ (ー) (s·i=be (R)) というように「ペ (ー)」または「ベ (ー)」が後接する形がある。また、調査で得られた形式では、スル=ベ (s·u-ru=be)、スツ=ペ (s·u-Q=pe)、スン=ペ (s·u-N=pe) というように、断定非過去形に「ベ」が後接する形や断定非過去形「スル」の「ル」が促音化または撥音化した形に「ペ」

が後接する形がある。

- ・センセーニ テガミ カゴ。(先生に手紙を書こう。)
- ・センセーニ テガミ カグベ。(先生に手紙を書こう。)
- ・オレモ マジサ イグベ (私も町に行こう)。
[町史] 624 頁
- ・エーガオ ミヨ。(映画を観よう。)
- ・エーガオ {ミルベ/ミッペ/ミンベ}。(映画を観よう。)
- ・ウエツ (植えよう) [町史] 623 頁
- ・アシタ {キヨ/コヨ} ネ。(明日来ようね。)
- ・アシタ クツ。(明日来よう。)
- ・マタ エンカイ シヨ。(また宴会をしよう。)
- ・アシタワ ハダゲシゴド {シベ/シッペ/シンベ}。(明日は畑仕事をしよう。)
- ・シッ (しよう) [町史] 623 頁
- ・アシタワ ハダゲシゴド {スル/スッ/スン}。(明日は畑仕事をしよう。)

〈推量形〉

断定非過去形に「ダロー」「ダンベ (一)」が後接する。多段型 r 語幹動詞「走る」、一段型動詞「見る」、「来る」、「する」では、断定非過去形の末尾の「ル」が撥音化した形に、それらが後接することもある。

カグ=ダロー (kag·u=daroR)、カグ=ダンベ (一) (kag·u=daNbe (R))。ハシン=ダロー (hasi-N=daroR)。ミン=ダロー (mi-N=daroR)、ミン=ダンベ (一) (mi-N=daNbe (R))。クル=ダロー (k·u=ru=daroR)、クン=ダロー (ku-N=daroR)、クル=ダンベ (一) (k·u=ru=daNbe (R))、クン=ダンベ (一) (ku-N=daNbe (R))。スン=ダロー (s·u-N=daroR)、スン=ダンベ (一) (s·u-N=daNbe (R))。

これらのほか、カグ-ン=ジャ=ネー=ゲ (kag·u-N=zja=neR=ge)、ミ-ン=ジャ=ネー=ゲ (mi-N=zja=neR=ge)、ク-ン=ジャ=ネー=ゲ (k·u-N=zja=neR=ge)、ス-ン=ジャ=ネー=ゲ (s·u-N=zja=neR=ge) でも推量を表現することがある。ゲは、相手にたずねる意味の終助詞「かい」に由来する形式で、ケと発音されることもある。

なお、多段型動詞には、断定非過去形にンダンベ

一が後接して推量を表すことがある。「書く」では、カグ=ン=ダンベ (kag·u=N=daNbe (R))。篠木 (1989) では、推量の程度が強い場合に現れるとされている。

- ・アイツワ テガミサ カグダロー。(あの人は手紙を書くでしょう。)
- ・アイツワ テガミサ カグダンベ。(あの人は手紙を書くでしょう。)
- ・ココニ オイドゲバ テガミオ ミンダロー。(ここに置いておけば手紙を見るだろう。)
- ・ココニ オイドゲバ テガミオ ミンダンベ。(ここに置いておけば手紙を見るだろう。)
- ・アシタワ ガッコニ クンダロー。(明日は学校に来るだろう。)
- ・アシタワ ガッコニ クンダンベ。(明日は学校に来るだろう。)
- ・アシタワ ガッコニ クンジャネーゲ。(明日は学校に来るのではないか。)
- ・アシタワ シゴドオ スンダロー。(明日は仕事をするだろう。)
- ・マサカ アシタワ スンダンベ。(まさか明日はするだろう。)
- ・ナカナカ ヤンナガッダゲド ソロソロ スンジャネーゲ。(なかなかやらなかったけれど、そろそろするのではないか。)

〈連体非過去形〉

断定非過去と同形である。ただし、連体非過去形では、多段型 r 語幹動詞の「入る」がハイツ=トギ (hai-Q=togi)、一段型動詞の「見る」がミツ=トギ (mi-Q=togi)、「来る」と「する」がそれぞれクツ=トギ (k·u-Q=togi)、ス=ツ=トギ (s·u-Q=togi)、シ=ツ=トギ (s·i-Q=togi) のように末尾の「ル」が促音化することがある。

- ・テガミオ カグ トギワ フデオ ツカウ。(手紙を書くときは筆を使う。)
- ・そんなに入とごあったの、ぬがって……。
[町史] 676 頁
- ・テガミオ {ミル/ミツ} トギワ メガネ サ ツカウ。(手紙を見るときは眼鏡を使う。)
- ・ガッコニ {クル/クツ} トギワ ジデンシャオ ツカウ。(学校に来るときは自転車を使う。)

- ・シゴト {スル/スツ/シル} トギワ キモノ ヌゲヤ。(仕事する時は着物を脱げよ。)
- ・スルッチー ハナシダ(するという話だ) [町史] 622 頁
- ・シルツチュート(するというと) [町史] 622 頁

〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

- ・テガミオ カイダコト ワスレタ。(手紙を書いたことを忘れた。)
- ・コノ ミジ アルダゴド アンナー。(この道、歩いたことがあるなあ。)
- ・テレビデ ミダコトガ アル。(テレビでみたことがある。)
- ・センセーワ キダゴトガ ネーナー。(先生は来たことがないなあ。)
- ・キノー シダゴドオ オモイダシテル。(昨日したことを思い出している。)

〈中止形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」は基幹イ段形に「テ」を後接する。このとき、「テ」は濁音化する。カイ-デ (kai-de)、ミ-デ (mi-de)、キ-デ (k-i-de)、シ-デ (s-i-de)。

また、〈断定過去形〉と同様に、語幹末子音が k である多段型動詞の中には、基幹音便形が促音になる語がある。アルツ-テ (歩いて) (ar-u-Q-te) など。

- ・デンゴン カイデ デガゲツカ。(伝言を書いて出かけるか。)
- ・アルツテ イグ。(歩いて行く。)
- ・ソゴマデ ミデ ヤメツペ。(そこまで見て止めよう。)
- ・家の人は寝てらんねがったもんね、ん。 [町史] 678 頁
- ・ソゴマデ シデ カエツタ。(そこまでして帰った。)

〈仮定形〉

①多段型動詞の基幹エ段形に「バ」、一段型動詞・「来る」「する」の基幹に「レバ」を後接した形、②多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」の基幹イ段形に「ダラ」を後接した形がある。

- ・ワルクチ カゲバ ケンカニナット。(悪口を

書けば喧嘩になるよ。)

- ・ワルクチ カイダラ ダメダガンナ。(悪口を書いたら駄目だからな。)
- ・コッソリ ミレバ ダイジダ。(こっそり見れば大丈夫だ。)
- ・センセイガ クレバ モンダイガ カイケツスルダロー。(先生が来れば問題が解決するだろう。)
- ・センセイガ キダラ モンダイガ カイケツスルダロー。(先生が来たら問題が解決するだろう。)
- ・センセーガ {スレバ/シレバ} カイケツスルダロー。(先生がすれば解決するだろう。)
- ・オレガ シダラ カナラズ デギル。(俺がしたら必ずできる。)

〈否定形〉

多段型動詞は基幹ア段形、一段型動詞は基幹、「来る」は基幹オ段形「コ」または基幹イ段形「キ」、「する」は基幹イ段形「シ」に、「ネー」を後接した形をとる。

カガ-ネー (kag-a-neR)、ミ-ネー (mi-neR)、コ-ネー (k-o-neR)・キ-ネー (k-i-neR)、シ-ネー (s-i-neR) となる。この形は形容詞に準じた活用をする。

- ・ソナナ メンドクセーゴド カガネー。(そのような面倒くさいことは書かない。)
- ・オッカナイ テレビワ ミネー。(怖いテレビは見ない。)
- ・アシタワ アメダガラ {コネー/キネー}。(明日は雨だから来ない。)
- ・ソナナ デホラグナゴド シネー。(そのようないい加減なことはしない。)

〈丁寧形〉

多段型動詞の基幹イ段形、一段動詞の基幹、「来る」は基幹イ段形「キ」、「する」は基幹イ段形「シ」に、丁寧の接辞「マス」を後続させる形をとる。カギ-マス (kag-i-masu)、ミ-マス (mi-masu)、キ-マス (k-i-masu)、シ-マス (s-i-masu) となる。なお、「マス」は、否定形「マセン」、断定非過去形「マス」となる。中止形の「マシテ」は使用することがほとんどない。

なお、「マス」の活用型については、未調査である。

- ・センセーニ テガミオ カギマス。(先生に手紙を書きます。)

- ・センセーオ ミマス。(先生を見ます。)
- ・センセーガ キマス。(先生が来ます。)
- ・センセーガ カナラズ シマス。(先生が必ずします。)

〈使役形〉

多段型動詞は、基幹ア段形に「セル」または「ス」が後接する形をとる。カガ-セル (kag·a-seru)、カガス (kag·a-su)。一段型動詞は基幹に「サセル」または「サス」が後接する形をとる。ミ-サセル (mi-saseru)、ミ-サス (mi-sasu)。「来る」は基幹オ段形またはイ段形に「サセル」が後接する形、基幹イ段形に「サス」が後接する形、基幹イ段形、ウ段形、オ段形に「ラセル」が後接する形をもつ。すべての例文は得られていないものの、次のような形式がある。コ-サセル (k·o-saseru)、キ-サセル (k·i-saseru)、キ-サス (k·i-sasu)、キ-ラセル (k·i-raseru)、ク-ラセル (k·u-raseru)、コ-ラセル (k·o-raseru)。「来る」は、部分的に一段型動詞の特徴が現れる。「する」は基幹ア段形に「セル」または「ス」を後接する形と、基幹イ段形に「ラセル」を後接する形がある。サ-セル (s·a-seru)、サ-ス (s·a-su)、シ-ラセル (s·i-raseru)。「する」は、一部にラ行五段化形が現れる。

なお、「セル」と「ス」の活用型については未調査である。

- ・コドモニ テガミオ カガセル。(子供に手紙を書かせる。)
- ・アレニ カンバン カガスカラヨ。(あれに看板を書かせるからね。)
- ・妊婦はあれ、みんな栄養失調だよ。ほんだつて食わせ(訳:食べさせ)らんねんだも。[町史] 679 頁
- ・コドモニ トンボオ ミサス。(子供に蜻蛉を見させる。)
- ・コドモニ トンボオ ミサセル。(子どもに蜻蛉を見させる。)
- ・カカリニ コサセル。(係に来させる。)
- ・カカリニ キサセル。(係りに来させる。)
- ・オックーダツツテタキツト キラセツカラヨ。(面倒だと言っていたけれど来させますからね。)
- ・カカリニ クラセル。(係りに来させる。)
- ・オガネオ カカリニ トリニ コラセル。(お

金を 係りに取りに来させる。)

- ・コドモラニ ウンドウオ イッパイ サセル。(子供達に運動をたくさんさせる。)
- ・コドモラニ テツダイオ シラセル。(子供達に手伝いをさせる。)

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」、一段型動詞は基幹に「ラレル」、「来る」は基幹オ段形、イ段形、ウ段形に「ラレル」、「する」は基幹ア段形に「レル」が後接した形をとる。カガ-レル (kag·a-reru)、ミ-ラレル (mi-rareru)、コ-ラレル (k·o-rareru)、キ-ラレル (k·i-rareru)、ク-ラレル (k·u-rareru)、サ-レル (s·a-reru)。

- ・ラクガギオ カガレツチッタ。(落書きを書かれてしまった。)
- ・フロ ハイッテンノ ミラレル。(風呂に入っているのを見られる。)
- ・イツモ シッパイオ ミラレルンダヨ。(いつも失敗しているところを見られるのだよ。)
- ・デガゲニ ヒトニ コラレツチッタ。(出かけるところに人に来られてしまった。)
- ・デガゲニ ヒトニ キラレツチッタ。(出かけるところに人に来られてしまった。)
- ・デガゲニ ヒトニ クラレツチッタ。(出かけるところに人に来られてしまった。)
- ・イジワルナコニ ヤナゴド サレル。(意地の悪い子に嫌なことをされる。)

〈可能形〉

可能の意味の区別なく用いられる汎用の可能形と状況可能を表す専用の可能形がある。

多段型動詞では、基幹エ段形に「ル」と、基幹ア段形に「サル」を後接する形がある。一段型動詞では、基幹イ段形に「レル」または「ラサル」が接続する形がある。「来る」は基幹オ段形、イ段形、ウ段形に「ラレル」が接続する形と、「ラサル」が接続する形がある。「する」は、代替動詞「デキル」が用いられる他、基幹イ段形に「ラサル」が後接した形をとる。「ル」「レル」を接続する形は可能の意味の区別なく用いられ、「サル」「ラサル」を接続する形は状況可能を表す。

カ-ゲル (kag·e-ru)、カガ-サル (kag·a-saru)、ミ-レル (mi-reru)、ミ-ラサル (mi-rasaru)、キ-ラレル (k·

i-rareru)、ク-ラレル (k·u-rareru)、コ-ラレル (k·o-rareru)、コ-ラサル (k·o-ra-saru)、シ-ラ-サル (s·i-ra-saru)。

なお、篠木 (1889) によれば、「来られる」の否定形は「キランネ (目上に対して使用)、コランネ (同等及び目下に対して使用)、クランネ (まったく気を使わなくてもいい人に対して使用)」とされている。

以下は能力可能の例である。

- ・オメ エーゴ カゲルンガ。(あなたは英語が書けるのか。)

以下は、状況可能の例である。

- ・うるさくて眠れね(訳:眠ることができない)もんね。[町史] 680 頁
- ・ムコーノ ヤマガ {ミレツケ/メレツケ}。(向こうの山が見られるか。)
- ・アシタナラ コラレルヨ。(明日であれば来られるよ。)
- ・アシタナラ キラレルヨ。(明日であれば来られるよ。)
- ・アシタナラ クラレルヨ。(明日であれば来られるよ。)
- ・テガミワ コンバンジューニ カガサンベ。(手紙は今夜中に書けるだろう。)
- ・テガミワ コンバンジューニ {カガサンジャネー/カガサンジャネン}。(手紙は今夜中に書けるのではないの。)
- ・ココニ オイドゲバ テガミ ミラサンベ。(ここに置いておけば手紙を見ることができだろう。)
- ・ココニ オイドゲバ テガミ {ミラサンジャネーゲ/ミラサンジャネンゲ}。(ここに置いておけば手紙を見ることができないか。)
- ・ヤンダツツテダゲド アシタワ ガッコーニ コラサッペー。(嫌がっていたけれど、明日は学校に来ることができだろう。)
- ・トイーキット アシタワ ウジニ コラサンジャネーゲ。(遠いけれど明日は家に来ることができないか。)
- ・デキナイツツテダケド コンドワ {シラサンジャネンゲ/シラサンジャネーゲ}。(できないと言っていたけれど今度はすることが

できるのではないか。)

- ・落ち着えて、ねんねに乳飲まっせっこどはできねってこど。[町史] 680 頁

〈尊敬形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」、一段型動詞は基幹に「ラレル」、「来る」は基幹オ段形、イ段形、ウ段形に「ラレル」、「する」は基幹ア段形に「レル」が後接した形をとる。カガ-レル (kag·a-reru)、ミ-ラレル (mi-rareru)、コ-ラレル (k·o-rareru)、キ-ラレル (k·i-rareru)、ク-ラレル (k·u-rareru)、サ-レル (s·a-reru)。

- ・センセーガ オテホンオ カガレル。(先生がお手本をお書きになる。)
- ・センセーガ サクヒンオ {ミラレル/メラレル}。(先生が作品をご覧になる。)
- ・センセーガ アシタ コラレル。(先生が明日来られる。)
- ・センセーガ テニスオ サレル。(先生がテニスをされる。)

〈継続形〉

「ている」に由来する「テル」を用いる。多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」は基幹イ段形に、「する」は基幹イ段形に、それぞれ「テル」が後接する。「テル」は濁音化して「デル」となることが多い。

- ・マダ オワンナグッデ カイデルケド アシタマデ カガルナー。(未だ終わらずに書いているけれど、明日までかかるな。)
- ・駆けて歩ってんだ。[町史]
- ・アギナグデ マダ ミデツカラ モースコシマッテペヨー。(飽きずにまだ見ているからもう少し待ってしよう。)
- ・ヒドガ マダマダ キテツケド モー ヘーテンダワ。(人がまだ来ているけれどももう閉店だわ。)
- ・マダ グズグズ シデル。(まだグズグズしている。)

〈希望形〉

多段型動詞は基幹イ段形に、一段型動詞は基幹に、「来る」は基幹イ段形に、「する」は基幹イ段形に、「タイ」が後接する。「タイ」は、「ダイ」「デー」「テー」とも発音される。この形は、形容詞に準じた活

用をする。

- ・センセーニ テガミサ {カギデー／カキテニ}。(先生に手紙を書きたい。)
- ・センセーニ テガミサ {カギダイ／カキタイ}。(先生に手紙を書きたい。)
- ・オキニイリノ シャシンオ {ミデー／ミテニ}。(お気に入りの写真を見たい。)
- ・オキニイリノ シャシンオ {ミダイ／ミタイ}。(お気に入りの写真を見たい。)
- ・ライネンモ ココニ {キデー／キテー}ナ。(来年もここに来たいな。)
- ・ライネンモ ココニ {キダイ／キタイ}ナ。(来年もここに来たいな。)
- ・ハナシオ {シデー／シテー} ノニ イソガシクッテ デキネー。(話がしたいのに忙しくてできない。)

〈のだ形〉

連体非過去形に「ンダ」が後接する。連体形の末尾が「ル」となる動詞、すなわち多段型 r 語幹、一段型、「来る」「する」では「ル」が脱落した「キンダ(切るんだ)」「ミンダ(見るんだ)」「クンダ(来るんだ)」「スンダ(為るんだ)」などの形もある。

- ・アシダマデニ テガミサ カグンダ。(明日までに手紙を書くのだ。)
- ・イマカラ エーガオ ミンダ。(今から映画を見るのだ。)
- ・イマカラ エーガオ ミルンダ。(今から映画を見るのだ。)
- ・アシタワ クルマデ クンダ。(明日は車を使って来るのだ。)
- ・アシタワ クルマデ クルンダ。(明日は車を使って来るのだ。)
- ・アシタワ ハダゲシゴド スンダ。(明日は畑仕事をするのだ。)
- ・スンダネーカ(するのではないか) [町史] 622 頁
- ・アシタワ ハダゲシゴド シンダ。(明日は畑仕事をするのだ。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用型は一つである。

〈断定非過去形〉

語幹に「イ」を付す形及び語幹末母音と「イ」が融合した形をもつ。例えば、「赤い」は、アガイ (aga-i)、アゲー (ageR) となる。

- ・イチゴガ アガイ。(苺が赤い。)
- ・ホッペタガ アゲー。(頬が赤い。)

〈断定過去形〉

語幹または断定非過去形「語幹-イ」に、動詞の音便基幹に準じた「ガツ」、さらに「タ」を後接した形をもつ。「赤かった」はアガ-ガツ-タ (aga-gaQ-ta)、アガイ-ガツ-タ (aga-i-gaQ-ta)、アゲー-ガツ-タ (ageR-gaQ-ta)、「暑かった」はアジー-ガツ-タ (adz-iR-gaQ-ta)、アジ-ガツ-タ (adz-i-gaQ-ta) が聞かれる。

- ・コノ マエノ リンゴワ アガガッタナ。(この前の林檎は赤かった。)
- ・キノーノ ユーヒワ アガガッタ。(昨日の夕日は赤かった。)
- ・キノーノ ユーヒワ {アガイガッタ／アゲーガッタ}。(昨日の夕日は赤かった。)
- ・コトシノ ナツワ {アジーガッタ／アジガッタ}。(今年の夏は暑かった。)

〈推量形〉

断定非過去形に「ダロー」と「ダンペー」が後接する。アガ-イ=ダロー (aga-i=daroR)、アガ-イ=ダンペー (aga-i=daNbeR) となる。また、語幹や断定非過去形に「カンペー」や「カッパー」を接続する形がある。例えば、アガ-ガン-ペ (aga-gaN-be)、タゲー-カッ-ペー (tageR-kaQ-peR) となる。

- ・モー ソロソロ リンゴワ アガイダロー。(もう、そろそろリンゴは赤いだろう。)
- ・マジガッデ ヌッタドゴガ カナリ アガイダンペー。(間違えて塗ったところがかなり赤いだろう。)
- ・ケガシダ ドゴガ ズイブン アガガンペ。(怪我をした所がかなり赤かろう。)
- ・タゲーカッパー・タガガンペー (高かろう) [町史] 623 頁

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同じ形をとる。

- ・コドモガ アガイ カオ シテル (子供が赤い顔をしている。)
- ・カラダガ アガイ ドギワ イシャニ イギ

ナ。(体が赤い時はお医者さんに行きなさい。)
 ・ヤダラ ソラガ アゲーガラ アシタワ ハ
 レット。(とても空が赤いので明日は晴れる
 ぞ。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同じ形をとる。

・ナツワ コンナニ {アジーガッタ／アジカ
 ガッタ}コトワ ネカッタ。(夏はこんなに暑
 かったことはなかった。)

〈中止形〉

語幹に「グテ」「グッテ」を後接した形で表現され
 る。アガ-グ-デ (aga-gu-te)、アガ-グ-テ (aga-gu-
 te)。「グテ」は、「グデ」と発音されることが多い。

・ユーヒガ アガグデ キレイダ。(夕日が赤く
 て美しい。)
 ・クチベニ コンナニ アガグッテ ダイジガ
 ナ。(口紅がこのように赤くて大丈夫かな。)

〈仮定形〉

語幹に「ゲレバ」を後接する形と、断定非過去形
 「語幹-イ」に、「ガッタラ」を後接する形で表現さ
 れる。

・モシ アガゲレバー クエット。(もし赤けれ
 ば食べる。)
 ・モシ アガイガッタラ クエット。(もし赤か
 ったら食べる。)

〈否定形〉

語幹に「グ」を接続し、さらに「ナイ」「ネー」を
 後接した形で表現される。アガ-グ=ナイ (aga-gu=nai)、
 アガ-グ=ネー (aga-gu=neR)、ウンマ-グ=ネー (uNma-
 gu=neR)。

・アンタワ アガイッツッテダケンド アガグ
 ナイガンネ。(あなたは赤いと言っていたけ
 れど、赤くないからね。)
 ・マダ アガグネーガラ ウンマグネーヨ。(ま
 だ 赤くないから美味しくないよ。)

〈なる形〉

語幹に「グ」を接続し、さらに「ナル」を後接し
 た形で表現される。また、連体非過去形に「グナル」
 を後接した形がある。アガ-グ=ナル (aga-gu=nanu)、
 アガ-イグ=ナル (aga-igu=nanu)。

・ハズガシグッテ {アガグナル／アガイグナ
 ル}。(恥ずかしくて赤くなる。)

〈副詞形〉

語幹や断定非過去形に「グ」を接続して動詞に続
 く。アガ-グ=動詞 (aga-gu=動詞)、アガ-イグ=動詞
 (aga-igu=動詞)。

・ソラガ アガグ ソマル。(赤く染まる。)
 ・エノグデ ユビガ アガイグ ソマッタ。(絵
 の具で指が赤く染まった。)

〈丁寧形〉

断定非過去形に「デス」を後接する。アガ-イ=デ
 ス (aga-i=desu)。

・コレワ アガイデス。(これは赤いです。)

〈のだ形〉

連体非過去形に、ンダを後接する形で表現される。
 アガ-イ=ン=ダ (aga-i=N=da)、アゲ=ン=ダ
 (age=N=da)。

・ダレガ ナンダッツッテ コレワ アガ
 インダ。(誰が何と言おうとこれは赤いのだ。)
 ・アスコノ シンゴーキワ イズモ アゲンダ。
 (あそこの信号機はいつも赤いのだ。)

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語と名詞述語は、ほぼ同様の活用をす
 る。

〈断定非過去形〉

形容名詞・名詞に「ダ」「デアル」を後接する。シ
 ズカ=ダ (sizuka=da)、シズカ=デアル (sizuka=de=aru)。
 ガクセー=ダ (gakuseR=da)、ガクセー=デアル
 (gakuseR=de=aru)。「デアル」は、日常的にはあまり
 用いられない。

・コノ センプーキワ シズガダ。(この扇風機
 は静かだ。)
 ・ウジノ ムスメワ ガクセーダ。(家の娘は学
 生だ。)

〈断定過去形〉

形容名詞・名詞に、「ダッタ」を後接する。シズカ
 =ダツ-タ (sizuka=daQ-ta)、ガクセー=ダツ-タ
 (gakuseR=daQ-ta)、アメ=ダツ-タ (ame=daQ-ta)。

・キノワ ウルサガッダノニ キョーワ シ
 ズガダッタ。(昨日はうるさかったのに、今日
 は静かだった。)
 ・サンジューネン メーワ ガクセーダッタ。
 (30年前は学生だった。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は、形容名詞に「ナ」や「デアル」を後接する。同じく、名詞に「ノ」や「デアル」を後接する。シズカ=ナ (sizuka=na)、シズカ=デアル (sizuka=de=aru)。ガクセー=ノ (gakuseR=no)、ガクセー=デアル (gakuseR=de=aru)。「デアル」は、日常的にはあまり用いられない。

- ・クッチャベツテバツガ イデ シズガナ トギガ ネー。(おしゃべりしてばかりいて静かな時がない。)
- ・コノ コワ シズカナ コトガ ネー。(この子は静かであることがない。)
- ・マメナ コドニ キガ ツク (細かなことに気が付く)。[町史] 673 頁
- ・ガクセーノ トキ グンマニ スンデタ。(学生の時、群馬に住んでいた。)

〈連体過去形〉

形容名詞・名詞に、「ダツタ」を後接する。シズカ=ダツ-タ (sizuka=daQ-ta)、ガクセー=ダツ-タ (gakuseR=daQ-ta)、アメ=ダツ-タ (ame=daQ-ta)。

- ・キノワ シズガダツタ アガンポーガ キョーワ ナイデバツガリ イダ。(昨日は静かだった赤ん坊が、今日は泣いてばかりいた。)
- ・ガクセーダツタ トキ グンマニ イタンダ一。(学生だった時、群馬にいたのだ。)
- ・アメダツタ コトー ワスレテ カサモ モタネーデ デカケツツタ。(雨だったことを忘れて傘も持たないで出かけてしまった。)

〈推量形〉

形容名詞、名詞に「ダロー」「ダンベ(一)」を後接する形によって表現される。シズガダロー (sizuga=dar・oR)、シズガダンベ(一) (sizuga=da-N=be (R))。ガクセーダロー (gakuseR=dar・oR)、ガクセーダンベ(一) (gakuseR=da-N=be (R))。

- ・アンダゲ イツダガラ シズガダロー。(あれだけ 言ったから静かだろう。)
- ・コショー ナオシダガラ シズガダンベ一。(故障を修理したから静かだろう。)
- ・ガクセーフグ キデツガラ アレワ ガクセーダロー。(学生服を着ているから、あれは学生だろう。)

・キョーカショ ミデツガラ アレワ ガクセーダンベ。(教科書を見ているから、あれは学生だろう。)

- ・エヌメダンベ (犬だろう) [町史] 624 頁

〈中止形〉

形容名詞、名詞に「デ」を後接する。シズカ=デ (sizuka=de)、ガクセー=デ (gakuseR=de)。

- ・コノ バショワ シズガデ イーネ。(この場所は静かで良いね。)
- ・マダ ガクセーデ ジカンワ アルケド オカネガ ナイ。(まだ学生で、時間はあるけれどお金がない。)

〈仮定形〉

形容名詞・名詞に、「ダラ」または「ナラ」を後接する。シズカ=ダラ (sizuka=dara)、シズカ=ナラ (sizuka=nara)。ガクセー=ダラ (gakuseR=dara)、ガクセー=ナラ (gakuseR=nara)。「ナラ」は条件を表す傾向が強い。

- ・アシダモ シズガダラ イーンダキット。(明日も静かであれば良いのだけ。)
- ・シズガナラ カンメノ オドモ キゴエルワ。(静かならば、蚊の羽音も聞こえるわ。)
- ・ガクセーダラ ガッコーサ アンダガラ チャンチャント アサ オギロヤ。(学生であれば、学校があるのだから、きちんと朝は起きろよ。)
- ・コンナ モンダイ ガクセーナラ トゲツペ。(このような問題、学生ならば解けるだろう。)

〈否定形〉

形容名詞・名詞に、「デネ(一)」「ジャネ(一)」を後接する。シズカ=デ=ネ (sizuka=de=ne)、シズカ=ジャ=ネ (sizuka=zja=ne)。ガクセー=デ=ネ (gakuseR=de=ne)、ガクセー=ジャ=ネ (gakuseR=zja=ne)。

- ・コージ ヤツテカラ シズガデネ。(工事をやっているので静かではない。)
- ・アレハ チーツチェーコロガラ シズカジャネ。(あれは、小さい頃から静かではない。)
- ・シズガデネ一 オゴラレット。(静かでないと 叱られるよ)
- ・ホンナ ダラシナグツデワ オメ ガクセー

ジャネーッテ イワレット。(このようにだ
らしがなくては、お前、学生ではないと言わ
れるよ。)

- ・ムスメワ ハー ガクセーデネーガラ ウジ
ニ インダ。(娘はもう学生ではないから、家
にいます。)

〈なる形〉

形容名詞、名詞に「ニ」を接続し、さらに「ナル」
を後接して表現する。「ニ」は「ン」になることもあ
る。シズカ=ニ=ナル (sizuka=ni=naru)、ガクセー=ニ
=ナル (gakuseR=ni=naru)。シズカ=ン=ナル
(sizuka=N=naru)、ガクセー=ン=ナル
(gakusei=N=naru)。

- ・ヨルンナッダガラ シズガン ナル。(夜にな
ったから静かになる。)
- ・オゴッダラ シズガニ ナルヨ。(怒ったら静
かになるよ。)
- ・ライネンガラ コノ ガッコーノ ガクセー
ニ ナル。(来年から、この学校の学生にな
る。)
- ・オレワ コゴノ ガクセイナル。(俺はここ
の学生になる。)

〈副詞形〉

形容名詞はシズガ=ニ (sizuga=ni) となる。名詞は
該当する形式がない。

- ・シズガニ マツ。(静かに待つ。)

〈丁寧形〉

形容名詞、名詞に「デス」を後接して表現する。
シズカ=デス (sizuka=desu)、ガクセー=デス
(gakuseR=desu)。

- ・アノコワ イツモ シズカデス。(あの子はい
つも静かです。)
- ・センセーニ セワニ ナッテル ガクセーデ
ス。(先生に世話になっている学生です。)

〈のだ形〉

形容名詞、名詞に「ナンダ」を後接する形で表現
される。シズガ=ナ=ン=ダ (sizuga=na=N=da)、ガク
セー=ナ=ン=ダ (gakuseR=na=N=da)。

- ・コノ ウミワ イズモ シズガナンダ。(この
海はいつも静かだ。)
- ・セガ デガグッデ オドナニ ミエッケド
ガクセーナンダ。(背が高くて大人に見える

けど学生なのだ。)

用例出典

町史：篠木れい子 (1989) 「第5章くらしと言語 第
3節方言」『氏家町史 民俗編』氏家町史作成委員
会 氏家町

参考文献

- 篠木れい子 (1989) 「第5章くらしと言語 第3節方
言」『氏家町史 民俗編』氏家町史作成委員会 氏
家町
- 大橋勝男 (1992) 「第二章 各地方言の解説 栃木県
方言」『現代日本語方言大辞典1』明治書院
- 佐藤亮一監修 (2004) 『標準語引き日本方言辞典』小
学館
- 平山輝男 (1992) 「第一章 現代日本語方言について」
『現代日本語方言大辞典1』明治書院
- 森下喜一 (1984) 「栃木県の方言」『講座方言学5 関
東地方の方言』国書刊行会
- 森下喜一編 (2004) 『日本のことばシリーズ9 栃木
県のことば』明治書院

(新井小枝子)